



「天定」は永遠の学び舎だ！

仰ぎ見る星に青春の夢を託し歩み続けた同窓会 53年の道程

同窓会「尚和会」がスタート

まだ戦争の爪あとが生々しく残っていた昭和20年代半ば、教育の必要性、教育の機会均等が日本の復興には欠かせないとの観点から、1950年以降次々と定時制高校が開設された。1951（昭和26）年4月に開校された天王寺高校定時制課程もその一つ。大阪市南部から南河内方面にかけての地域・職場に密着した夜間高校として、向学心に燃える勤労学徒に広く門戸が開かれた。

当初の生徒定員は2クラス100名、専任教員3名でのスタートであった。以後、年ごとに新しい生徒を迎えつつ発展を続け、1955（昭和30）年2月26日、記念すべき第1期生の卒業式が挙行された。卒業生61名がめでたく巣立ち、ここにわが同窓会は歴史の第一歩を踏み出したのである。翌年2月、第2期生89名を加えて150名となり、牛丸剛・赤壁光郎・油井八千代の各氏（以上1期生）と赤木耀介氏（2期生）が役員・世話役に名を連ねている。

1959（昭和34）年、第4期生を加えて会員数は300名を超え、ようやく組織としての体裁が整い始めた。会長に3期生の小西辰朗氏を選出、4期

生の石田博之・板根武夫・芝田作寿各氏がこれを補佐する体制も組まれた。同窓会名が「尚和会」と名づけられたのもこの頃だと思われる。「尚和」という文字が入ったバッジが作られ、各年度の卒業生に対して配られるようになった。当時は卒業生数が毎年100名を超え、財政的にそれだけのゆとりがあったのであろう。

しかし、当時はまだ卒業期やクラス別などへの意識は希薄で、年に1度の総会は、同じ環境で学んだ仲間たちの集まりという感じが強かったようだ。その会場としては、母校の会議室や食堂が使われていた。

創立20周年記念式典を開催

会員数が650名を超えた1961（昭和36）年、会長は4期生の石田博之氏にバトンタッチされた。会員が「自分は〇期生」という意識を持つようになり、同窓会本来の姿になったのはこの頃からであろう。総会のスタイルも一変した。同窓生の意見を取り入れて会場をナンバの「味園」に移し、500円程度の参加費ですき焼きをつつきながらの総会となった。また、通信費・諸雑費などの運営費は、在校生が年々支払っている同窓会会費でま

かない、不足分が生じた場合は有志からの寄付金で補っていた。

1966（昭和41）年、会員数は1,200名を超え、会長に雀部倉平氏、副会長に志賀芳弘氏（いずれも6期生）が選出された。また、世話役として芝田作寿氏（4期生）と伊藤秀広氏（6期生）が選ばれている。この時期の課題は、4年後に迫った母校創立20周年記念事業であった。具体案づくりは1968（昭和43）年度から着手、やがて次の5項目からなる大要が決定された。

- ①同窓会名簿の発行
- ②20周年記念誌の発行
- ③記念式典および同窓会役員と在校生との懇親会の開催
- ④図書館の整備・充実
- ⑤クラブ施設等の充実

これらの事業を推進するにあたり、同窓会では1口500円の協賛寄付を全会員に呼びかけた。なお、20周年記念式典は1970（昭和45）年11月15日午後4時より、阿倍野区役所内にあった区民ホールにおいて挙行され、同時に20周年記念誌『尚和』が発行された。

その翌年、会長は7期生の上杉明氏に引き継がれた。上杉会長の尽力により参加する卒業期の幅が大きく広がり、全体総会としての意義が一段と高まったが、留任7年という歳月のなかでそれもやがて限界に達し、抜本的な改革が求められるようになった。



尚和会バッジ

組織を一新し「紅萌会」誕生

会員数2,500名を突破した1978（昭和53）年5月24日、ナンバの「大天閣」に約30名の同窓生有志が集まり、月1回の理事会を開いて事後の同窓会

運営について協議を続けることを確認した。7月1日の第2回理事会において、坪田信道会長（5期生）をはじめ2名の副会長と4名の会計からなる役員を選出。また、坂本篤夫理事長（5期生）をはじめ9名の理事からなる理事会を発足した。さらに中西建策委員長（9期生）をはじめ5名の委員からなる母校創立30周年記念事業委員会を組織し、同窓会活動の活発化と30周年記念事業の遂行を強力に推進することとなった。



食堂で開いた同窓会風景

同年12月の理事会では組織刷新の一環として、同窓会名を「紅萌会」と改称することを決定した。これは天王寺高校応援歌の一節「紅萌ゆる桃陰の…」に由来するものである。また、より多くの同窓生に活動状況を知ってもらうとともに、30周年記念事業への協力を呼びかけるため、『紅萌会会報』を発行することを決定した。その発行・発送にかかる費用は会員の賛助広告でまかなうこととし、1979（昭和54）年4月15日付けで第1号が発行された。こうして、現在の「紅萌会」活動の原型が形づくられたのである。

1980（昭和55）年11月18日、新装なった母校の体育館において創立30周年記念式典が挙行され、同窓会から母校に対し記念品として視聴覚教材を贈呈した。翌年5月10日には記念誌『青春30年のあゆみ』を発行。また、この日に開催した第27回総会において会長に中村俊之氏（10期生）、副会長に稲葉貞夫氏（18期生）と小倉明子氏（10期生）を選出、理事長には坂本篤夫氏が留任した。なお、30周年記念事業の一つとして編纂を進めてきた同窓会名簿は、資金不足と住所不明者があまりにも

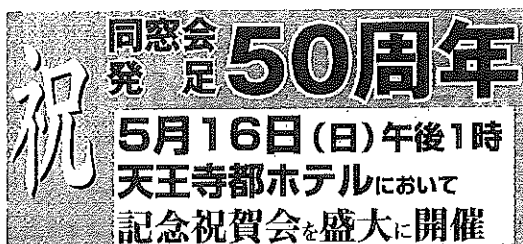
多かったため、1985（昭和60）年にいたってようやく完成をみている。

創立 50 周年記念式典を開催

1986（昭和61）年3月の卒業生を加え、同窓生総数はついに3,000名を突破した。しかし、1974（昭和49）年3月卒業の20期生が100名を割って以来、在校生＝卒業生の数は減少の一途をたどるようになり、在校生が納付する同窓会費だけでは同窓会運営が立ち行かなくなってきた。そこで年会費制を導入することを決定、1989（平成元）年から会員に1,200円の年会費を納入してもらうことにし、以後の同窓会運営の財政基盤を確立した。

1996（平成8）年度から、定時制と通信制を併修することによって3年間で卒業できる、いわゆる「定通併修制」が導入された。これを受けて1999（平成11）年3月7日、定時制・定通併修制合同の初の卒業式が行われ、わが同窓会も新しいタイプの同窓生を迎えることになった。そうしたなか、母校創立50周年記念事業への準備に着手し、2000（平成12）年6月に学校・同窓会・振興会一体となった「創立50周年記念事業実行委員会」が発足した。

2001（平成13）年5月20日、今はない天王寺都ホテル本館5階において、創立50周年記念式典・祝賀会が開催された。正午から嵯峨の間で厳粛に式典が行われ、このあと会場を醍醐の間に移してテーブル数18卓・約180名による盛大な祝賀パーティが開催された。さらに同窓生総数が4000名を超えた3年後の2004（平成16）年5月16日、天王寺都ホテル6階の吉野の間において「同窓会発足50周年記念祝賀会」を開催、恩師および1期生から51期生まで同窓生103名の出席を得て、同窓会50歳の誕生日を祝った。



同窓会存廃の岐路を迎えて

しかし、そうした祝賀ムードに水をさす、青天の霹靂ともいえる事態が持ち上がった。2003（平成15）年8月末、大阪府教育委員会が定時制高校の「再編整備計画案」を発表。府立夜間定時制29校のうち、天王寺高校も含む14校を廃校にするという計画が打ち出されたのである。当然のことながら「天定の灯を守ろう」との声が高まり、9月5日、同窓生・在校生・教職員、保護者30名以上が集まって「天王寺高校定時制を守る会」が結成され、同窓会の故坂本篤夫理事長が代表に選ばれた。



以後、署名運動や府教委への働きかけなど活発な運動が展開されたが、残念ながら大勢を覆らせるにはいたらず、2005（平成17）年度からの生徒募集が停止され、母校57年の歴史は幕を閉じることとなった。その後の同窓会は、定時制閉課程後の存廃が最大の課題となった。存続するにしても、記念碑や資料室の設置で定時制課程が存在したことは残るが、母校がなくなる寂しさはぬぐえない。同窓会活動はまさに新たな局面を迎えたのである。



同窓会発足50周年祝賀会



通史 (定時制の沿革)

昭和
26年

3月9日

大阪府立天王寺高等学校定時制課程普通科として4月1日付設置認可される。

以下は「設置認可申請書」の内容の一部を抜粋したものである。

「大阪市南部における全日制課程の高等学校教育を受けることのできない好学者に定時制課程を履修せしめることを目的」とし、教育方針は

- 1 和を尊び誠実を旨とする。
- 2 男子は質実剛健、女子は貞淑温雅を旨とし、明朗闊達な気風を醸成する。
- 3 人に接するに気品あり、事を処するに聡明なるをよしとする。

を校訓とし、本年度の努力目標を

- 1 校風の確立
- 2 学校環境の整備
- 3 学習指導の検討と改善
- 4 生活指導の徹底強化
- 5 健康の管理と指導の強化
- 6 教職に対する自覚の高揚

とした。

授業時数は、週24時間、1週6日制、1日4時間、授業開始は午後5時から午後9時までとし、教育課程は、別紙のとおり4年間で必修科目数は38単位、選択科目数58単位とし大幅に選択科目を設け生徒のニーズに対応した出発であった。

昭和26年度大阪府立天王寺高等学校定時制課程設置予算案

予算計上の基礎事項

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 一 募集生徒数 | 100名 (50宛 2組) |
| 二 教室数 | 2 (但し特別教室を別に設く) |
| 三 授業時数 | 週24時間 1週6日制 1日4時間 (自午後5時至午後9時) |
| 四 教員数 | 9名 (校長を除く) |
| | 内訳 専任教員4名 (主事1名 他3名 計4名) |
| | 国語科、社会科、理科、数学科、外国語科 各1名 (1名兼任) |
| | 講師 5名 |
| | 体育科、音楽科 (書道科)、図画科、家庭科、社会科 各1名 |

- | | |
|------|---|
| 一 目的 | 大阪市南部に於ける全日制課程の高等学校教育を受けることのできない好学者に定時制課程を履修せしめることを目的とする。 |
| 二 名称 | 大阪府立天王寺高等学校定時制課程 |
| 三 位置 | 大阪市阿倍野区天王寺町三二一〇 大阪府立天王寺高等学校内 |
| 四 学則 | 学校教育法及び教育法施行規則による高等学校学則に準用す |

- 五 校舎 平面図別紙添付の通り
- 六 設置科目及び編成表 別紙の通り
- 七 設置の概略 別紙添付の通り
- 八 開設の時期 昭和26年4月1日

設備の概要

高等学校設置基準に示された上記各設備は当分可能なる限り天王寺高等学校のものを兼用し特に夜間授業に必要な照明（教室及び図書は照度200ルクスを下らない程度）を施す。

- 一 校長室、会議室、教員室、事務室
- 二 普通教室
- 三 社会科教室及びその標本室
- 四 物理、化学、生物、地学のそれぞれの実験室、標本室及び準備室
- 五 音楽教室、図画教室及びそれぞれの準備室及び書道教室
- 六 図書室、講堂、体育館
- 七 教員研究室
- 八 医務室、休養室
- 九 運動場
- 十 学習用、体育用及び保健衛生用の図書、機械器具、標本、模型その他の教具
- 十一 定時制の為別個に必要とする教師用机、椅子及び給食施設整理棚、図書具他の器具等は新たに設置する。

編成表

- 一 設置科目 普通科目（四年制） 第1学年 100名（男女共学）
☞ カリキュラムは資料編参照
- 二 実施時期 昭和26年4月1日より

昭和
26年度

4月1日

大阪府立天王寺高等学校長清水治郎、夕陽丘高等学校と兼任。教諭奥島保二主事兼任、専任教諭4名（含む主事）、（数学 井本 亨、 国語 大野順三、 英語 塩野芳夫）生徒数100名、2学級で出発した。

☞ カリキュラムは資料編参照

「ララ物資による脱脂粉乳のミルク化」給食を、校務員室で実施。

〈注〉ララ物資〔Licensed Agency for Relief of Asia〕（P.37に詳細が記載されている）。

11月

第1回定時制総合体育大会が行われる（中百舌鳥競技場）。

大阪府定通教育振興会結成される。

昭和
27年度

4月1日

大阪府立天王寺高等学校長後藤安久着任。専任教員5名。

11月1日

教諭池本左賀介主事に着任。

昭和
28年度

4月1日

専任教員8名。

昭和
29年度

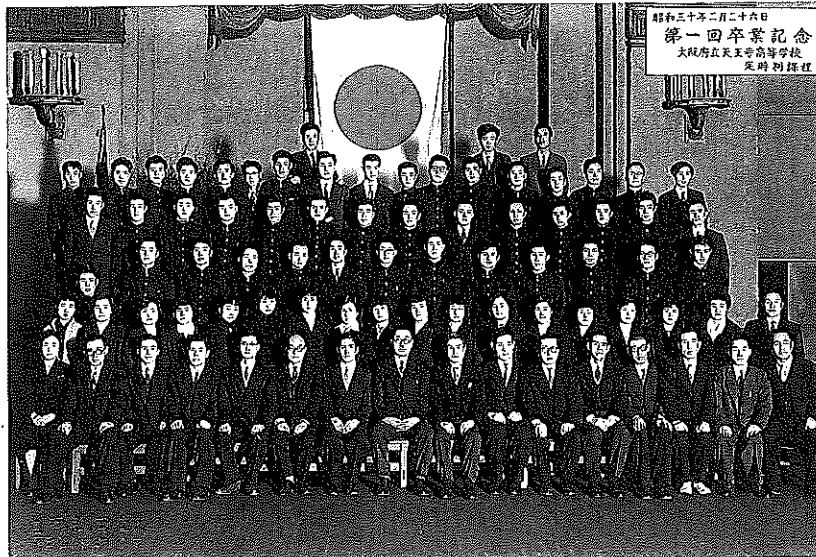
4月1日
12月5日
2月26日

専任教員13名。

第1回大阪府高等学校定時制生活体験発表会開催（勝山高校）。

第1期生卒業、61名。

（教育委員会賞赤壁光郎、秩父宮賞花岡静雄、牛丸(山田)寿美子）



第1回卒業式

昭和
30年度

4月1日

専任教員14名、生徒定員600名（4学年3学級編成完了）。

第4学年で能力別のクラス編成を行う。

昭和
31年度

4月1日

第1学年で2つのコース別（4年間でカリキュラムが異なる）クラス編成を行う。

☞カリキュラムは資料編参照

校務分掌 教務、指導、厚生、施設、庶務、事務の部で構成される。

☞詳細については資料編参照

クラブ活動 生徒会、文化部、運動部の3部門で活躍。

☞詳細については資料編参照

定時制専用図書583冊。

4月23日

「夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律」成立。

9月

バレーボール大会、ソフトボール大会行われる。

昭和
32年度

4月1日

校務分掌 教務部、指導部、庶務部の3部となる。

定時制専用図書755冊。

在籍489名（男304名、女185名。以後、昭和36年を境に男女比率が逆転する）。

4月2日

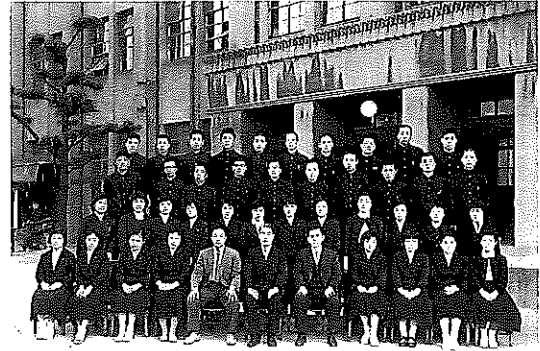
「夜間学校給食実施基準」実施。

昭和
33年度

- 5月 第1回大阪府高等学校定時制音楽親交会（今宮高校）。
9月 本校等府立7校が学校給食実施。パン、ミルク、副食の完全給食。
非常勤栄養士1名、調理師2名配置。施設、設備等困難多し。
10月31日 「大阪府高校教職員に対する勤務評定規則」公布。

昭和
34年度

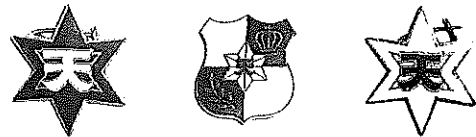
- 4月1日 第1学年でのコース別を廃止。
第3・4学年でコースを設定。
生徒会会則成立、施行。
全定連絡協議会始まる。
6月 体育祭実施。
2月 勤務評定反対運動が激化。



昭和34年のクラス写真

昭和
35年度

- 8月 大阪府高等学校職員組合支援で生徒
会連合結成運動起こる。
9月 水泳大会行われる。
11月 生徒互助会発足。
3月 卒業式変更される（例年2月に行わ
れていた）。



昭和
36年度

- 4月5日 「大阪府立天王寺高校学則」施行。
6月1日 非常勤監視員設置。
11月 第11回定時制総合体育大会（本年度より服部公園に移転）。

昭和
37年度

- 4月1日 栄養士の定数化。パン、ミルクの無償給付。
11月 大定連主催総合文化祭開催（森之宮労働会館）。
教室内照明改善。

昭和
38年度

- 4月1日 学校長に坪井明着任。
学級増による生徒定員650名。第1学年4学級となる。
新指導要領による改訂教育課程実施（必修科目拡大、類型別履修の実施）。
☞カリキュラム資料編参照
校務分掌 教務、指導、庶務、事務の4部で構成。
☞詳細については資料編参照

クラブ活動 文化部、運動部の2部門で活躍。

☞ 詳細については資料編参照

11月23日

第1回大阪府高等学校定時制美術展覧会（定美展）開催。

昭和
39年度

4月1日

専任教員18名。

この年より進学指導係をもうける。

昭和
40年度

4月1日

専任教員23名。

この年より体育祭、文化祭を隔年開催。

昭和
41年度

4月1日

生徒定員800名（第1学年4学級編成完了）。

給食調理員定数化。

7月

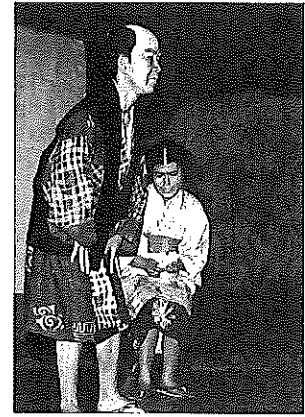
第2職員室新設。生徒図書室も移転。

8月

第1回全国高校定通制陸上競技大会開催（東京）。

3月

運動場照明改善。



天高祭 舞台

昭和
42年度

4月1日

学校長に中畔肇着任。

教員の日宿直廃止、警備員制度発足。

7月

新プール完成。

11月

生徒総会において大定連自治会加盟校より有志加盟校へ切り替え決議。

11月9日

大阪定通教育20周年記念式典開催（御堂会館）。



体育祭 組立体操

昭和
43年度

4月1日

専任教員24名。第1学年の1学級生徒定員46名となる。

給食の水光熱費府費負担。

9月18日

生徒の政治活動に関する府教委通達。

11月

自習室設置、生徒図書室移動。

昭和
44年度

4月1日

第1学年の1学級生徒定員44名となる。

司書配当実現、定時制専用図書室開設。

生徒会会則一部改正（文化・体育部長新設）。

創立20周年記念準備委員会スタート。

5月1日

学校長に竹谷新着任。

昭和
45年度

- 4月1日 定時制主事に加藤銀四郎着任。
第1学年の1学級生徒定員42名となる。
府費増額による生徒負担軽減初年度。
給食面の改善で生牛乳 200ml (cc) 支給にともない脱脂粉乳から脱出。
- 5月28日 札幌南高校修学旅行団交歓訪問。
- 5月31日 遠足 1・3年：六甲 2年：須磨
4年：友ヶ島
- 6月 校内放送設備完成。
監護当番実施開始（女子職員免除）。
陸上部全国大会へ出場。
- 6月28日 万博見学。参加生徒148名、引率教員8名。
12時30分集合、午後から夜にかけて見学。
- 9月 定時制専用図書3,298冊。全日制図書室を定時制に週1日開放。
入室者1日平均20名、貸出8～10名。
- 10月15日 同窓会名簿第1回発行。
- 11月15日 創立20周年記念式典開催（阿倍野区役所区民ホール）。



万博見学

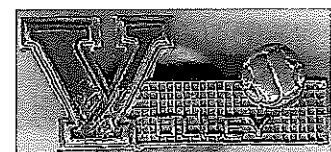
昭和
46年度

- 4月1日 第1学年の1学級生徒定員40名となる。
- 5月 視聴覚委員会設置。
- 9月 「光化学スモッグについて」説明会開催。
- 1月10日 給食費値上げ実施（40円→60円）。



昭和
47年度

- 4月1日 施設の改善に対する計画書を提出。
◇定時制理科準備室の新設。
◇第1職員室の改善整備。
◇定時制男子生徒更衣室の新設（仮設）。
◇その他
ア. 視聴覚教室の新設。
イ. 生徒相談室の共用実現。
ウ. 保健室の蛍光灯・騒音・ドアの改善。
エ. 給食施設室の雨樋・天蓋の修繕新設。
オ. 防犯灯の増設。
- 11月 必修クラブ活動開始。



バレー部の部章

昭和
48年度

4月1日

新指導要領による教育課程実施。

☞ カリキュラム資料編参照

校務分掌 教務、指導、庶務、事務の4部で構成。

☞ 詳細については資料編参照

クラブ活動 生徒会復活、体育系、文化系の3部門で活躍。

昭和
49年度

4月1日

給食面の改善でデザートが無償給付実施。

11月

秋の遠足実施。以後10年間継続される。

1月1日

小林孝久定時制教頭に着任。

1月25日

本校生徒5名NHKの座談会に出席。

3月8日

「通信併修制を府として廃止する」教育長通達。

昭和
50年度

4月1日

学校長に明石立身着任。

前年に引続き、給食面での改善で、米飯への補助が出る。

10月

新体育館等施設充実計画の具体化始まる。

2月16日

スキー講習会実施（長野県山田牧場スキー場）。

昭和
51年度

5月

1学年宿泊研修実施＜8日～9日：北摂高原＞。

飯盒炊爨、レクリエーションを企画。

女子25名、男子35名、引率教員13名。

6月

4年修学旅行＜15日～19日：東北地方＞。

9月

新体育館竣工：1階に食堂（給食室はこの場所に移転）と柔剣道場、2階が体育館。

11月

生活体験発表大阪代表に松岡道生君の「私の今日まで生きてきた道」が選出。

昭和
52年度

6月

教育実習（昭和48年本校卒業生の男子）＜6日～18日＞。

オリベッティ・コンピュータを府立高校で初めて配置。

10月30日

テニス部女子 近畿大会で3位。



昭和
53年度

4月1日

秋山計義 定時制教頭に着任。

4月9日

給食費値上げ。

4月14日

交通ストライキ。

校務分掌 教務、生徒指導、進路指導、生徒会、保健、事務の6部で構成。

☞ 詳細については資料編参照

10月25日

阿倍野デューン協議会開催。

* 阿倍野区内にある公立・私立高校生生徒指導担当者と阿倍野警察署による連絡協議会。現在も年2回開催されている。

昭和
58年度

5月

球技大会 <16日～18日>。

6月

教育実習 男子3人、女子2人(本校卒業生1人を含む) <7日～20日>。

6月15日

全定連絡協議会。

水泳講習会 <14日～15日>。

10月

修学旅行 中国地方津和野方面
<1日～4日>。

11月

文化祭 <15日～16日>。

12月20日

スケート講習会。

1月28日

予餞会開催。

3月12日

本校校務員 平泉氏逝去。



球技大会

昭和
59年度

4月1日

第2学年より家庭科を男女共修とする。

* 当時の担当者の感想を定時制の記録に掲載

4月

生徒のロッカー使用禁止となる。

6月

男子ロッカー室は部活動後の部室に転用とする。

7月15日

水泳講習会。

7月

学級数減少が問題となる。

10月

定美展で軽音楽部1位、書道部2位に入賞。

4年修学旅行 九州方面 <5日～9日>。

(参加者) 女子:20名 男子:33名 計53名

(引率教員) 教頭他4名 計5名

11月14日

音楽祭開催 内容を2つに分け、会場も体育館と講堂に分ける。

12月19日

スケート講習会(大阪球場スケートリンク) 参加者271名。

1月21日

修学旅行実施学年の4年から3年への変更が検討される。

1月26日

予餞会開催。

3月

予餞会を廃止し、次年度より文化祭に改め、11月中旬に開催予定とする。

昭和
60年度

4月1日

松尾闌昭 学校長に着任。

原納 淳 定時制教頭に着任。

6月

4年修学旅行 西九州方面。

(参加者) 女子:29名 男子:17名 計46名

- 11月 (引率教員) 教頭他4名 計5名
文化祭開催 <8日～9日>。
2月 継続審議の「校内における喫煙」に対し、結論が出される。
次年度より1年から3年までは校内全面禁煙とし、4年は許可制とする。

昭和
61年度

- 4月1日 外出許可証を発行し、無断外出を指導する。
5月19日 全定連絡協議会開催。
9月 体育祭開催 <18日～19日>。
3月 コンピュータ設置の説明が行われる。

昭和
62年度

- 4月1日 福井 治 定時制教頭に着任。
10月13日 舞台鑑賞会実施。「民族歌舞団 わらび座」(本校体育館)。

昭和
63年度

- 6月2日 コンピュータ初心者講習会開催(情報科学教室)。
6月11日 舞台鑑賞会 出演「フォルクローレーブカソンコ」(講堂)。
—南米(ペルー)ラテン民俗音楽—
6月18日 校舎改築に伴う希望調査始まる。
8月1日 陸上部 全国定通制総合体育大会全国大会で4位に入賞。
8月 天然ガス切り替え工事行われる<20日～30日>。
10月 3年修学旅行 信州方面 <5日～8日>。
(参加者) 女子:26名 男子:20名 計46名
(引率教員) 教頭他5名 計6名
10月17日 学校給食の民間委託化に反対の要望書を提出。

平成
70年度

- 4月1日 三木雅文 学校長に着任。
4月7日 校舎改築委員の選出。
4月10日 学校長より校舎改築の基本的構想の説明がなされる。
6月26日 校舎改築のための要望面積(最終案)提出。
9月3日 水泳講習会、大雨警報発令のため実技講習を中止。7日に延期。
9月19日 暴風雨警報発令により2限で終了。
10月15日 生活体験発表大阪府大会で三須重子さん3位に入賞。
2月 3年修学旅行 (奥美濃:岐阜県ひるがの高原スキー場) <3日～6日>。
(参加者) 女子:20名 男子:24名 計44名
(引率教員) 教頭他5名 計6名



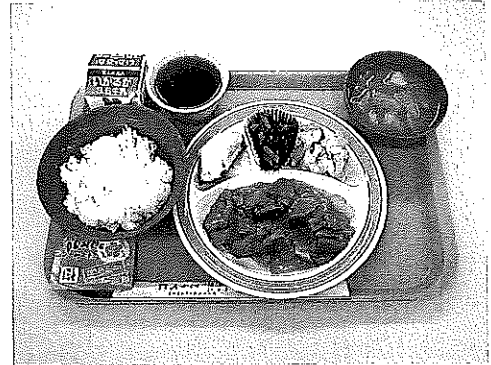
スケート講習

平成
2年度

- 4月1日 生徒定員640名
9月 水泳講習会 <3日～5日>。
11月 第1回天高祭（従来の文化祭を天高祭に名称変更）<8日～9日>。
3月3日 第38回卒業証書授与式。三須重子さん大阪府高等学校定時制通信制教育振興会賞を受賞。NHK並びに在阪テレビ局各社取材。

平成
3年度

- 4月1日 林 一雄 定時制教頭に着任。
5月17日 職員会議開催曜日の変更が決定される。
6月17日 校舎改築工事日程発表される。
6月30日 水泳講習会（桃谷高校のプールを借用）。
10月3日 定通併修制についての検討始まる。
11月 第2回天高祭開催<14日～15日>。
2月24日 4週6休について説明。



なつかしい給食

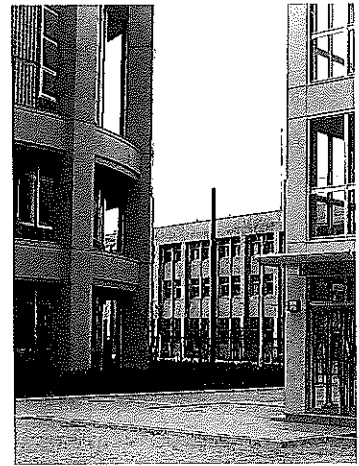
平成
4年度

- 4月20日 「職員会議に関する内規」の一部改正。
4月30日 全定連絡協議会開催。
「振興会会則」の一部改正。
6月 教育実習 男子1名 <1日～13日>。
7月1日 教職員の週休2日制についての概要に関する説明。
7月20日 新校舎への引越についての説明。
9月14日 定通併修制継続審議。3年制導入についての検討。
10月 体育祭<6日～7日>。
10月30日 舞台鑑賞会 日本の国際貢献「海外青年協力隊」の現状
竹見伸一教諭の「西アフリカ・ガーナ」での活動を中心に。
12月7日 スケート講習会。
機構改革の中で、1年担任の複数制廃止論が持ち上がり、原則等を検討。
12月18日 学級数減問題についての検討。
全庁一斉退庁日（ゆとりの日）設定について説明（毎月20日とし、実施は平成5年1月からとする）。
12月20日 学校案内を新しく作成することを決定。
1月25日 校舎改築にともない新年度より学校警備の体制変更の説明
<有人警備から機械警備に>。
2月 3学年修学旅行（岐阜県ひるがの高原スキー場）<3日～6日>。
（参加者）女子：17名 男子：22名 計39名
（引率教員）5名
中学訪問（2月下旬）教職員23名が複数で38校訪問。

- 2月22日 4週8休について説明。
- 2月24日 職員会議議長輪番制となる。
- 3月6日 第39回卒業式 卒業証書を卒業生一人ずつに手渡しする（旧校舎講堂における最後の卒業式）。

平成 5年度

- 4月1日 野村公信 校長に着任。
毎月第2土曜日休業日となる。
- 4月25日 遠足 1年：服部緑地 2年：奈良公園
3年：鶴見緑地 4年：神戸三宮方面
- 5月10日 新グラウンドの完成に伴い、グラウンド照明についての要望書を提出。
- 6月5日 保護者懇談会、振興会総会（山内佳郎氏会長に選出）。
- 6月 球技大会 <10日～11日>。
- 6月28日 進路講演会を多目的ホールで開催。
講師 古村成正（昭和36年本校卒業生）
「線路のない進路」—人生を決める3つの未来—
- 7月4日 水泳講習会（校舎改築に伴い新設されたプールで）。
- 10月 体育祭 赤、白のブロック制 <7日～8日>。
3学年修学旅行 西九州方面（長崎 ハウステンボス）。
（参加者）女子：12名 男子：15名 計27名
（引率教員）4名
- 11月 文化祭 <11日～12日>。
- 12月17日 スケート講習会。
- 1月18日 舞台鑑賞会を多目的ホールで開催。
講師 木村英男「ハーモニカでつづる人権と平和」
- 1月24日 校内マラソン大会。



完成した新校舎より望む旧校舎



水泳講習会

平成 6年度

- 4月1日 小川修一 校長に着任。
- 5月1日 遠足 1年：服部緑地 2年：鶴見緑地 3年：神戸三宮方面 4年：浜寺公園
- 5月7日 新校舎竣工記念式典（本校）・祝賀会（ホテルエコー）举行。
- 6月 校内球技大会（男子ソフトボール・女子バレーボール）<9日～10日>。
- 7月4日 水泳講習会。
- 10月 第37回体育祭（体育館）<6日～7日>。
- 10月 3学年修学旅行（東京方面）<22日～24日>。
- 11月5日 舞台鑑賞会（るんぴに太鼓）。
- 11月 天高祭 1日目：体育館で舞台
2日目：多目的ホールで展示<18日～19日>。

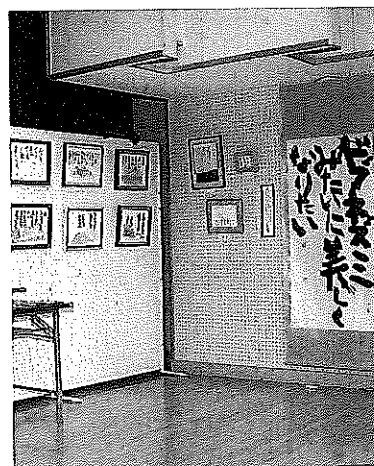
12月1日 学校見学会（志望者対象）。
12月20日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。

平成 7年度

6月 校内球技大会<8日～9日>。
男子：サッカー・バレーボール
女子：バドミントン・バレーボール
10月8日 遠足 1年：浜寺公園 2年：神戸三宮周辺 3年：みさき公園
4年：大阪史跡巡り・御堂筋パレード
11月1日 学校見学会。
11月4日 文化鑑賞会（人形劇一人形劇団みのむし・紙芝居一出口座）。
11月 天高祭 第1日目：第38回体育祭
第2日目：文化祭（多目的ホール）<17日～18日>。
12月15日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。
1月 3学年修学旅行（ひるがの高原・スキー講習）<31日～2月3日>。

平成 8年度

4月1日 森部幸人 定時制教頭に着任。
定通併修制度を導入する。
6月 校内球技大会。
第1日目：男子ソフトボール
女子バドミントン
第2日目：男女バレーボール <6日～7日>。
6月30日 水泳講習会。
10月3日 文化鑑賞会（なんばグランド花月）。
10月6日 遠足 1年：摂河泉ハイキングコース
2年：天王寺公園
3年：万博記念公園
10月 3学年修学旅行（東京都内・東京ディズニーランド）<24日～26日>。
11月1日 学校見学会。
11月 天高祭 第1日目：第39回体育祭
第2日目：文化祭（多目的ホール）<15日～16日>。
12月17日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。



文化祭展示

平成 9年度

4月1日 松田孝一 校長に着任。
6月 校内球技大会（競技内容は前年同様）<12日～13日>。
6月29日 水泳講習会。
9月26日 第40回体育祭。

- 10月5日 遠足 1年：フェスティバルゲート 2年：万博記念公園
3年：自然史博物館と植物園 4年：奈良公園
- 10月8日 文化鑑賞会（映画「マルタイの女」または「ロストワールド」アポロビル）。
- 10月31日 学校見学会。
- 10月 3学年修学旅行（長島温泉・鈴鹿サーキット）＜26日～28日＞。
- 11月21日 天高祭（文化祭）。
- 12月16日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。

平成
10年度

- 6月 校内球技大会 ＜11日～12日＞。
- 6月28日 水泳講習会。
- 9月25日 第41回体育祭。
- 10月4日 遠足 1・4年：海遊館 2・3年：柏原ぶどう園
- 10月 3学年修学旅行（スキードーム「ザウス」・東京ディズニーランド）＜21日～23日＞。
- 10月28日 文化鑑賞会・映画「12人の優しい日本人」（多目的ホール）。
- 10月30日 学校見学会。
- 11月13日 天高祭（文化祭）。
- 12月16日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。

平成
11年度

- 4月1日 植田 武 定時制教頭に着任。
- 6月 校内球技大会 ＜10日～11日＞。
- 6月27日 水泳講習会。
- 9月24日 第42回体育祭。
- 10月3日 遠足 1年：万博記念公園エキスポランド 2年：フェスティバルゲート
3年：天王寺動物園・美術館 4年：神戸方面
- 10月 3学年修学旅行（北海道道南方面）＜19日～22日＞。
- 11月19日 天高祭（前夜祭）。
- 11月20日 天高祭（舞台の部）。
- 12月16日 スケート講習会（大阪球場スケートリンク）。

平成
12年度

- 6月 校内球技大会 ＜8日～9日＞。
- 6月17日 振興会総会。
- 7月 水泳講習会 ＜11日：3・4年 12日：1・2年＞。
- 10月13日 第43回体育祭。
- 11月 天高祭（第1日目：模擬店の部 第2日目：舞台の部）＜17日～18日＞。
- 12月15日 ボウリング講習会（ボウル カスタム）。

平成
13年度

- 4月1日 馬路英和 校長に着任。
5月20日 創立50周年記念式典挙行
(天王寺都ホテル)。

平成
14年度

- 4月1日 宮野恭一 定時制教頭に着任。
学校週5日制となる。
10月22日 学校教育自己診断として「学校教育アンケート」実施(平成18年度まで継続)。
対象は生徒、保護者、教職員。併せて「授業アンケート」実施。
3月 「学校教育アンケート報告書」を発行。



創立50周年記念式典

平成
15年度

- 4月1日 山崎 彰 校長に着任。
第1学年より定通併修制を廃する。
第1学年に総合的な学習の時間「基礎教養」を開講する。
6月 教育懇談会(三者協議会)を開催する。
8月 高校再編整備計画として、定時制の課程14校の募集停止提案。
11月 高校再編整備計画により本校定時制の課程の募集停止(平成17年度入試より)が決定される。

平成
16年度

- 4月1日 安藤康行 定時制教頭に着任。
4月8日 第54回入学式(最後の入学式)。
11月15日 第1回学校協議会開催(平成18年度まで開催)。
委員 中村俊之(同窓会長) 高橋 修(大阪市立天王寺中学校長)
山崎芳枝(振興会長) 壺井 純(阿倍野公共職業安定所)
遠藤清茂(卒業生) 岡田 隆(大阪市中央児童相談所)

平成
17年度

- 4月1日 岡 毅 校長に着任。
5月1日 遠足 1年~3年:ユニバーサル・スタジオ 4年:神戸北野異人街
5月2日 奄美・沖縄島うた文化を考える会(愛称「島うたユイゆい」)の歌舞を多目的ホールで鑑賞。
7月13日 球技大会(卓球、ドッジボール)。
9月30日 体育祭(体育館)。
10月 3年生、北海道道南へ修学旅行<5日~7日>。
(参加者) 女子:9名 男子:10名 計19名 (引率教員)5名

11月10日

天高祭 <10日～11日>。

第1日（模擬店）三明町2丁目自治会の人々を招待（平成18年度まで）。

第2日（舞台発表）。

3月3日

卒業式（4年生とともに高卒認定試験を利用した3年生10名も卒業）。

平成18年度

4月1日

美濃幸男 定時制教頭に着任。

7月10日

第1回閉課程記念事業実行委員会開催。

平成18年度事業として「記念碑」の製作と「記念植樹」を協議。

9月29日

体育祭開催（最後の体育祭）。

10月

2・3学年修学旅行

沖縄（最後の修学旅行）<4日～6日>。

（参加者）女子7名／男子8名 計15名
（引率教員）教頭他4名 計5名

11月24日

第2回閉課程記念事業実行委員会開催。
碑文に「紅萌」を選定。

1月18日

人権教育講演会。

講師 新阜剛史氏（NTT西日本）

「携帯電話・インターネットによる人権侵害の問題」NTT西日本社内報に掲載される。

3月9日

卒業式（4年生20名とともに高卒認定試験を利用した3年生2名も卒業）。



平成18年度 体育祭



平成18年度 最後の修学旅行（沖縄）

平成19年度

4月1日

生徒定員40名。

在籍生徒数は男子7名、女子11名の計18名。

4月10日

紅萌会会報第29号発刊。閉課程記念資料提供を呼びかける。

5月1日

芸能鑑賞会として「田辺寄席」を多目的ホールで開催。

参加者209名（在校生、教職員、同窓生、地域住民等）。

NHK「関西ニュース一番」で放映される<8日>。

6月4日

閉課程記念事業実行委員会開催。

平成19年度事業として「記念資料集」の発行と「記念資料室」の設置を協議。

3月7日

第54回卒業式（最後の卒業式）。



閉課程記念事業実行委員

閉課程記念事業実行委員

- 委員長 岡 毅 (校長)
- 副委員長 山下 敏夫 (事務部長)
- ◇ 美濃 幸男 (教頭)
- ◇ 中村 俊之 (同窓会長)
- 監 事 矢野 節子 (振興会長)
- ◇ 稲葉 貞夫 (同窓会副会長)
- 会 計 南 松次 (課長補佐)
- 委 員 古村 成正 (同窓会幹事)
- ◇ 遠藤 清茂 (◇ 役員)
- ◇ 山崎 芳枝 (元振興会長)
- ◇ 小西 順治 (教諭)
- ◇ 北中 廣興 (教諭)
- ◇ 徳田 爲洪 (教諭)

②第2回 11月24日 (金)

- 1) 記念碑・記念植樹に関する経過報告
- 2) 記念資料に関して

*第2回実行委員会において、記念事業に関する次の事項を決定した。

- ①碑文を「紅萌」とする
- ②記念植樹を桜 (染井吉野) とする
- ③記念碑・植樹場所を西門横とする
- ④記念資料提供依頼文を同窓会より発送する



定時制記念碑

閉課程記念事業実行委員会記録

【平成18年度】

①第1回 7月10日 (月)

- 1) 閉課程記念事業委員会の設置
- 2) 閉課程記念事業計画案

*第1回実行委員会において、平成18年度記念事業として次の事業を決定した。

- ①記念碑の製作
- ②記念植樹

英語点訳辞書エピソード

英語科の徳田教諭より、LLコントロール室に保管されている点訳コンサイス英和辞典全72巻を有効に活用できないか、という話があった。

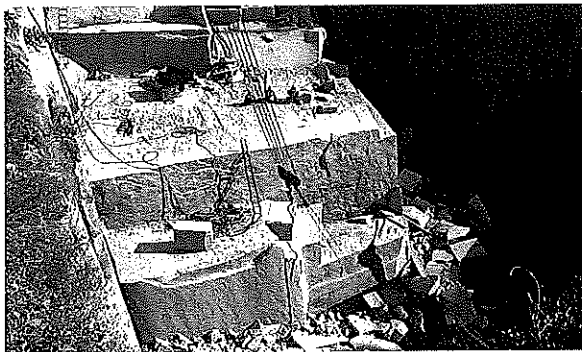
吉村信義元英語科教諭から窺ったところによると、視覚に障害を持たれた先生がおられたので学校が購入した、ということであった。

大阪府教育センター図書館への寄贈を打診し、現在、同図書館に収蔵されている。貴重な書籍であり、今後は大阪府下における教育活動に広く役立てていただけることを祈念している。

記念碑エピソード

碑文を同窓会の名称になっている「紅萌」とすることは、閉課程記念事業実行委員の総意で決定した。同窓会長である中村俊之氏が揮毫され、定時制卒業生の思いが一点一画に込められた堂々たる記念碑となった。

また、設置場所の選定から施工に至るまで、遠藤清茂氏の多大なるご尽力があったことを記しておかなければならない。



採石風景

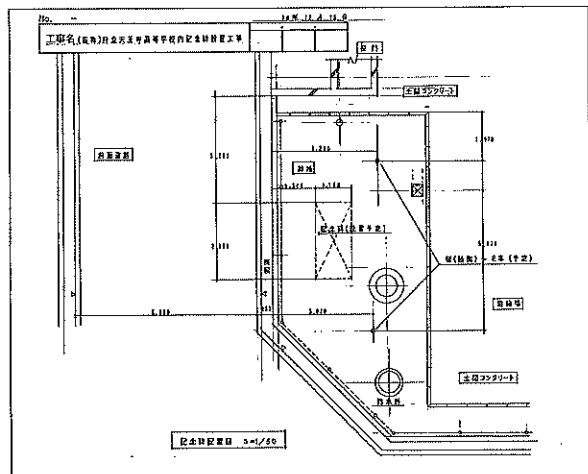


刻字直前

記念植樹エピソード

平成18年6月9日(金)の振興会総会において、保護者、生徒、教職員が閉課程記念事業に関する意見交流を行った。

生徒から「周辺道路から眺められるような場所に定時制の樹があれば嬉しい」という意見や、「入学式の



遠藤清茂氏による記念碑設置場所図面

頃に咲く桜」という声が多かった。

実行委員会では西門横に植樹し、記念碑も同じ場所に設置することを決定した。

定時制桜が毎年見事な花を咲かせ、多くの卒業生の目を楽しませてくれることを願っている。

【平成19年度】

①第1回 6月4日(月)

- 1) 18年度記念事業報告
- 2) 19年度事業計画
- 3) 記念資料収集状況について

* 第1回実行委員会において、平成19年度記念事業として次の事業を決定した。また、資料集の表題について意見交換をした。

- ① 記念資料集の編纂
- ② 記念資料室の設置

②第2回 10月22日(月)

- 1) 19年度記念事業中間報告
- 2) 記念資料集進捗状況について

* 第2回実行委員会において、記念事業用封筒と記念品としてネックストラップ(携帯電話仕様)の作成を決定し、資料室を「定時制記念資料室」とし、北館1階にある全日制の生徒指導室に設置することを内定した。

③第3回 12月20日(月)

- 1) 19年度記念事業中間報告
- 2) 記念資料集編集の進捗状況について
- 3) 定時制記念資料室進捗状況について

* 第3回実行委員会において、資料集の表紙デザイン原案が決定された。

④第4回 1月21日(月)

- 1) 閉課程について
- 2) 閉課程記念事業進捗状況について
- 3) 定時制記念碑の設置について
- 4) 閉課程記念式典について

* 第4回実行委員会が開催された日に記念碑が西門横に設置された。さらに、記念式典を3月30日(日)に開催することが決定された。

閉課程記念資料集編集委員

編集長	美濃 幸男(教頭)
編集委員	中村 俊之(同窓会長)
	稲葉 貞夫(〃副会長)
	古村 成正(〃監事)
	遠藤 清茂(〃役員)
	山崎 芳枝(元振興会長)
	矢野 節子(振興会長)
	北中 廣興(教諭 校内委員)
	徳田 爲洪(教諭 校内委員)

閉課程記念資料集編集委員会記録

第1回 7月26日(木)・27日(金)

- 1) 原稿執筆依頼者の決定
- 2) 依頼文の作成
- 3) 仕様書について
- 4) 掲載写真の選定

第2回 8月30日(木)

- 1) 執筆者の最終確認
- 2) 資料集の全体構成について
- 3) 資料集の見積りに関して

* 表題を7期生でコピーライターをしておられる古村成正氏より提案された「星空を仰いで」とすることを決定した。

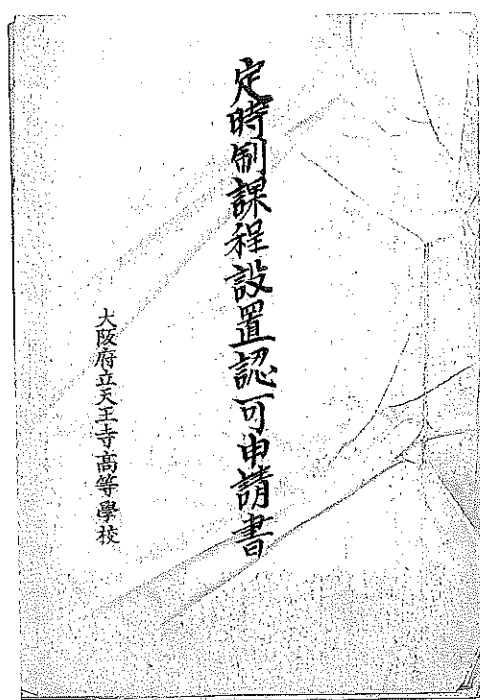
記念資料集作成のエピソード

記念資料集の表紙デザインは全日制の110周年記念誌を参考にした。表紙と裏表紙を彩る濃いエンジ色は、夕闇迫る頃に始業時を迎える定時制をイメージする色

として校内編集委員が選定した。

掲載する思い出の写真は、卒業生の編集委員が卒業アルバムや提供資料から選定し、校内編集委員が追加した。

写真選定の作業中、古い写真によく目が止まった。校舎のたたずまいは重厚で、階段の手すりは黒く光っていた。冷暖房などの設備は整ってはいなかったであろうが、真剣な学びの場があった。その校舎が今は無いことに一抹の寂しさを感じる。また、どの生徒も社会人でありながら、世間慣れしていない雰囲気漂わせている。彼らは、定時制が閉課程になることを想像しえたであろうか。「時代」を感じて、しばし、心は涙ぐんでいた。

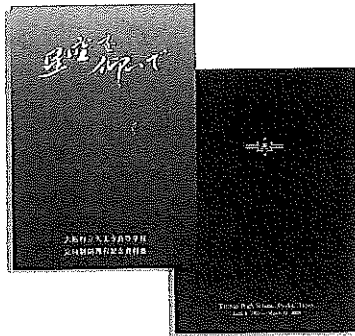


平成19年12月に「定時制課程設置認可申請書」が見つかった。昭和26年設置当時の貴重な資料として「定時制記念資料室」に收藏されることになった。

記念資料提供者(敬称略)

徳永忠和(旧職員)・田中幸昭(旧職員)・古村成正(7期生)・小松まさみ(旧姓:谷 8期生)・中村俊之(10期生)・稲葉貞夫(18期生)・和歌山県在住匿名(18期生)・米沢素子(19期生)・遠藤清茂(22期生)・松島澄子(22期生)・森本敏夫(24期生)・立石初美(28期生)

編集後記



刊行にあたって

編集長 美濃 幸男

昭和26年から57年間輝き続けた天王寺高校定時制の閉課程にあたり、数々の思い出や貴重な記録を記すということは予想以上の大任でした。

編集作業に与えられた、結局一年という限られた時間との闘いの中で、多くの方々から貴重な品々や写真などの提供を賜りましたことに感謝しております。言葉には尽くしきれませんが、何よりご自身が定時制に通学・通勤されていた当時の思い出話を、手紙や電話を通じて多くの方々から伺えたことは望外の喜びでした。

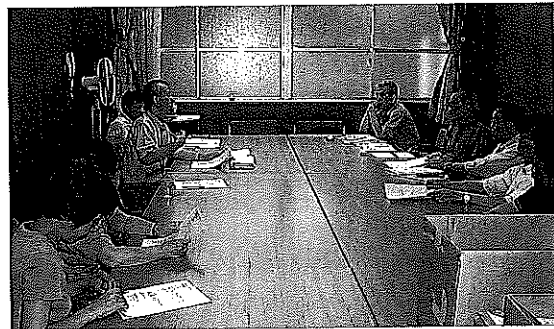
末永くこの資料集が多くの天王寺高校定時制関係者の皆様方に懐かしく手に取られることを祈念しております。

「青春讃歌」に寄せる

編集委員 T・T生

三田 明という歌手が「美しい十代」という歌を歌っていました。その歌詞に「昨日習った♪ノートを君に♪貸してあげよう♪優しい君に♪」という一節があります。「つらい日もある♪泣きたいことも♪あるさそれでも励ましあって♪美しい十代♪ああ十代」と続きます。「美しい十代」という映画があり、この歌はこの映画の主題歌だったということを知りませんでした。カラオケでこの曲を歌う

と、三田が演じる若者が仕事を終えて学生服に着替えて登校するシーンが映像に登場します。この若者は主役ではないのですが、彼が歌うこの歌は、昼間働いて夜は定時制高校で学ぶ人達の応援歌だったので、「遅くなるからさよならしよう♪話し合ったらつきない二人♪明日またねと手を振り合えば♪丘の木立に夕陽が紅い」と歌われる夕暮れ時は登校前の一瞬で、若者は「学校に遅刻してはいけなから、話はここできりあげよう。」と決断しているのです。私は定時制高校の出身ではありませんが、1960年代を高校生として共有した者として、この歌を自分への応援歌として歌っています。



編集会議風景

「閉課程に感じること」

編集委員 H・K

定年までの最後の勤務校にと、平成13年4月にこの学校に転勤してきた。定時制高校教育に携わり、20数年になる。私が定時制高校に勤務した頃の生徒はなんらかの意味で中学校や高等学校で落ちこぼれたり、不登校などになった生徒の再教育の場であったように感じる。生徒達が立ち直り、就職や進学していく姿は素晴らしいものであった。このような喜びの中、教員生活を送ってきたように感じる。今、天王寺高校定時制の閉課程に当たり、色んな思いが走馬燈のように頭の中を駆けめぐる。親の経済的な問題で、私学の高校や公立高校から転校してきた生徒など思いが尽きない。多くの定時制高校が消えて行くのは寂しく悲しい。これも時代の流れか、と感じざるを得ない。